

## 現状と方向性

経済・財政一体改革の改革工程表は、課題ごとに集中改革期間を設け、時期ごとに、行うべきことを明示され、進行すべき課題の説明に透明性がある。また、KPI指標において、目標も定められており、達成の度合いが明確である。ただ、この工程表を有効活用するためには、以下の3つの視点の改善が重要である。



### POINT1

**省庁間・国と地方間の連携役割分担のあり方:** 改革工程表は、その課題を主に担当する省庁を中心にまとめられることになるが、他の省庁や地方とどの様に連携すれば効率的効果的なのかの視点が見えない部分も多い。その情報も随時整理し、追記していくことが、工程表を深化させる。

### POINT2

**進行状況把握とその要因分析:** 改革工程表は、工程を明示しているため、実際の進行状況との比較が容易であるが、実際の進行状況がどうなっているのかを同時に確認できていない。予定と現実を同時に整理し、乖離がある場合にその原因は何であるか、その乖離を埋める方法をいつまでに措置するのかなども、随時、明示していく仕組みづくりが望ましい。

### POINT3

**財政貢献の視点: 税込拡大かコスト効率化の実現可能性および程度を必ず明示:** 経済再生と財政健全化の両立を目指しているが、現在の工程表におけるKPIでは、その視点が必ずしも明確ではない。経済再生を計測するもっとも客観的な基準は、税込の拡大である。つながれば財政健全化と両立する。(税込につながらない質改善があればその理由を特別に明示する: 税制度の不備など) 加えて、コスト低下につながる場合は、確実に計測して記入することも必要。